



石井病院

じんけいクリニック

Now Vol.145

- Since 2008

JINKEIKAI NEWSPAPER

発行：2020.4

## 石井病院 医療情報 ～ 新型コロナウイルス 集団感染を防ぐために ～

新型コロナウイルス対策の専門家会議は3月9日、感染拡大を防ぐために「クラスター」と呼ばれる集団での感染を防ぐことが重要だとして、日常生活でリスクの高い場面についての考え方をまとめました。

発表された内容によると、これまで感染が確認された場に共通するのは①換気の悪い密閉空間 ②人が密集していた ③近い距離で会話や発声が行われた という3つの条件が重なった場（例：スポーツジム、ライブハウス、懇親会等での発生が報告されています。）とし、これらが同時に重ならないように対策することを呼びかけました。

そのうえで「リスクを下げる3原則」として下記①～③を示しました。

- ① **換気を励行する** … 窓のある環境では、可能であれば2方向の窓を同時に開ける
- ② **人の密度を下げる** … 人が多く集まる場合では、会場の広さを確保し互いの距離を1～2m程度あける
- ③ **周囲の人が近距離で発声するような場を避ける** … やむを得ない場合は、マスク等の咳エチケットを行う

専門家会議では、こうした原則に従って行動したうえで、手洗い、手指の消毒、せきエチケットの徹底、共用品を使わない（使う場合は消毒をする）、など感染予防の対策を呼びかけています。

不要不急（趣味、飲み会、イベント等）の外出は避け、人込みを避けるようにしましょう！

※ 2020年3月23日現在の情報をもとに作成しています。発行後、厚生労働省等の情報が改変される場合もありますのでご了承ください。



## 石井病院 診療情報 ～ 80列マルチスライスCTで精密検査が受けられます ～

当院では、高性能の80列マルチスライスCTスキャナを設置しております。

この検査では、患者様が寝台に横になるだけで苦痛もなく頭部から胸部・腹部の断層像（輪切り）が鮮明に撮れます。検査はとても簡単で短時間ながら広範囲の撮影が行え、頭部外傷・脳出血・脳梗塞等の頭部疾患から胸部疾患および腹部臓器（肝・胆・脾・腎・膀胱・その他）疾患にいたるまで、全身の診断が可能です。



### 【当院で受けられる主な検査】 短時間で終了し、苦痛の少ない検査です

- **大腸CT検査** … 便潜血検査で陽性になった方、大腸内視鏡検査が苦手な方におすすめします。炭酸ガスでお腹を膨らませ、あお向けとうつ伏せの撮影を行います。（10～15分程度）撮影した画像をもとに仮想大腸内視鏡像を作成し、病変の有無を確認して診断します。
- **冠動脈CT検査** … 胸痛のある方や冠動脈硬化のリスクのある方のスクリーニング検査として、造影剤を使用しますが、従来のカテーテル冠動脈造影検査と比較して、非侵襲的で短時間でできる検査です。お薬で心拍数を調整する事もありますが、約10秒間の息止めで検査自体は終了します。血管の走行や狭窄部位の有無、石灰化やプラーク性状などが評価可能です。

詳しい検査内容をお知りになりたい方、検査をご希望の方は、担当医までお気軽にお尋ね下さい。



## じんけいクリニック 「集大成」

2015年春、医師として丸25年経過した節目の年、わたくしはこれまでのキャリア集大成として、ここ、じんけいクリニックに院長職として着任させていただきました。結果的には日々これ死闘なり、身も心も少なからず疲弊し時に魂まで消耗するほどの壮絶な診療（死闘）の連続でしたが、病欠含め欠勤は1日もなく（そもそもこの30年間法定伝染病以外での欠勤はないのですが）連日連夜、365日、寝ている間も含めて（夜間目が覚めた瞬間の残像は必ずいつも仕事関係、窮地に追い込まれ、もがき苦しむ内容ばかりでした）ただただ任された患者さんを如何にして延命するか、如何にして危機を事前予測し未然に回避するか、を考え工夫し続ける日々でした。その中で少しずつですが発案され改善され、まるで石に文字を刻むが如く完熟していった事項について述べさせていただきます。



じんけいクリニック

院長

ふくし よしひこ  
福士 剛彦

具体的には、

- ① 基本的に一人の主治医（院長）が連日勤務し、即効的判断を下せる体制の構築
- ② ウルトラピュアな水の作製及びそれを用いたオンライン血液透析濾過治療を全透析ベッドで採用
- ③ 夜間、祝祭日を含めた24時間緊急透析可能なシステム構築
- ④ 感染症患者さんへの個室隔離透析ベッドの作製（新型コロナウイルス感染流行の昨今では最重要）
- ⑤ 高齢患者さんのほぼ全員への肺炎球菌ワクチン接種
- ⑥ パスキュラーアクセス手術（PTA、AVF、AVG、上腕動脈表在化術、長期留置型カテーテル挿入術）の全てを即日、緊急で施行可能なシステム構築
- ⑦ カテーテル留置をできるだけ行わない中心静脈1回ごと刺し抜き穿刺技術の構築
- ⑧ 面でも線でもなく点でとらえるピンポイント血管穿刺技術の構築及びスタッフ伝道
- ⑨ 入院治療が必要となった場合に、石井病院で小生が主治医として継続治療を行えるシステム構築
- ⑩ 日々変化する除水目標体重と、やや長期的目標のドライウェイトとを概念的に区別したダブルスタンダードシステム採用での至適除水設定（至適ドライウェイト設定）
- ⑪ 週3回透析にこだわらず必要な患者さんへは週4回透析施行での頻回透析の遂行
- ⑫ 末期腎不全という通常とは全く異なる薬剤代謝経路を、個別に熟考した上での至適薬剤投与
- ⑬ 血中カルシウム、リン、副甲状腺ホルモン値の厳重な管理（結果的に続発性副甲状腺機能亢進症患者さんの撲滅）
- ⑭ 全透析患者さんの1年ごとの胸腹部CT、6か月ごとのSPP測定、インボディ測定、1～6か月ごとのシャント血流エコー測定でのパスキュラーアクセス管理

以上のような事柄が前半の約3年で確立され、さらに後半の2年をかけてより完成の域に達したと自負しています。少なくとも透析診療ソフト面においては、これが小生の泌尿器科医師人生の集大成、と言っても過言ではない内容でしたが（これで医師人生に終焉が訪れたとしても後悔はないという内容でした）、この1年間はハード面でもクリニック開設以来初となる全館リフォームを行い、災害時も含めたより安全な医療機関への変貌を遂げることに成功しました。

人類は今、未曾有の新型コロナウイルス感染症との戦いの日々ですが、小生が医師となった30年前から透析患者さんの延命はいつも難題に次ぐ難題の連続、人類未踏の世界でありました。ゆえに我々透析担当医療人にとってはことさら今回のみではなく、また常にチャレンジャーであり続けねばならないという認識で、これまで通り肅々と日々の極超～超難問題解決に邁進してゆきたいと思っています。

今年度もいよいよ始まりましたが、皆様からのご指導ご鞭撻を真摯に受けとめ、またより優れた透析治療を目指して努力し続ける所存ですので、今後とも宜しくお願い致します。

### ■ 医療連携相談室

TEL 078-918-1512 FAX 078-918-1725  
 平日 9:00～12:00 14:00～17:00  
 土曜 9:00～12:00  
 担当 酒見 古門 上野

### 編集・発行

医療法人社団 仁恵会 石井病院 広報委員会  
 〒673-0881 明石市天文町1-5-11  
 TEL 078-918-1655 FAX 078-918-1657  
<http://jinkeikai-group.or.jp/ishii/>